



1 「上伊澤元禄絵図」の写し。原図は1700（元禄12）年に描かれたもの。集落や道路（赤色）、塚などが色別で記されており、当時の仙北街道の様子を伺い知ることができる

2 胆沢若柳にある「塚袋の一里塚」。古老の伝聞と上伊澤元禄絵図に記載された一里塚の位置が一致する。北側はなくなり、南側だけが残る

奥州遺産

—ときを越え
受け継がれるもの—
第111回

仙北街道

水沢／下嵐江／秋田県東成瀬

秋田県と岩手県の内陸南部を結ぶ仙北街道。古くは平安時代にまで利用がさかのぼるといわれ、江戸時代には幹線道路としてにぎわった。仙北街道の道のりは、水沢で奥州街道と分かれて西へと進む。若柳の供養塚で国道397号と合流し、さらに西進する。市野々には藩境の御番所と「検断」という村役が置かれ、物と人の出入りを取り締まっていた。

下嵐江からは奥羽山脈を越える険しい山道が続く。背負子と呼ばれる賃夫が活躍し、50キもの荷物を背負い山を越えた。岩手側からは魚や日用品、秋田側からは米や酒、漆器などが運ばれたという。しかし、明治以降、北上横手間に道路や鉄道が開通すると、仙北街道は急速に廃れていく。行き交う人が無くなった街道は深山に埋もれ、わずかに残る石碑や地名、伝承が、その存在を今に伝えている。

※仙北街道のうち、下嵐江―手倉御番所跡（秋田県東成瀬村）間が、このほど文化庁が選定する「歴史の道百選」に選定されました

広告

●広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197-64-1523)